

2023年(令和5年)1月15日(日曜日)

富士ニュース

富士高校会議所は
県内の優れた「モノ」
や「コト」をたたえる
コンテスト「2022
グッドデザインしづおか」で特別賞を獲得した。
「マスマス元肥(げんぴ)」を使って富士宮を元気に!」と題した
SDGs実践が評価を得た。このほど、メンバーラが市役所で須藤秀忠市長に報告した。

コンテストでは県内の中小企業や団体から
76点(モノ58点、コト
15点)の応募があり、
同会議所は、市の魚
ニジマスの加工がすと
朝霧高原の牛ふんを
使って「マスマス元肥」
を開発し、普及を進め
ながら、マスマス元肥
で育てた農作物の商品化に取り組んでいる。

高校会議所 グッドデザイン特別賞



報告では、吉村未夢会頭をはじめとするメンバー19人が活動内容を紹介し、今回の受賞については「地域の課題に取り組み、持続可能な社会づくりの実践例として、継続的にビジネス的視野を取り入れている点が評価された」と説明した。

マスマス元肥は、耕作放棄地の再生や東日本大震災の被災地の花いっぱい運動に役立てるなど活用の幅を広げているほか、小学生の「SDGs夏休み自由研究講座」や「SDGsコンテスト」を開催し、持続可能な社会づくりの啓発にも努めていることを伝えた。

須藤市長は、「皆さんのが若い発想による取り組みは、富士宮市を元気にさせている。今後とも市の活性化に向けて頑張ってほしい。応援している」と述べた。

市長と一緒に受賞を喜ぶメンバー(提供写真)